

平成 26 年度三番瀬鳥類個体数経年調査結果抜粋

1. 調査の目的

三番瀬海域 3 地点（日の出、塩浜、ふなばし三番瀬海浜公園）、行徳湿地及び谷津干潟の鳥類の飛来状況を、連続して飛来数を計測することによって、より詳細に把握する。

2. 調査方法

三番瀬海域の、日の出、塩浜、ふなばし三番瀬海浜公園、および谷津干潟は、同一日の午前中に実施した。

行徳湿地は、行徳湿地保全事業の中で別に実施した鳥類継続的調査の結果を用いた。（※2001～2002 年、2007 年度の行徳湿地の調査では、ラインセンサス法と定点調査法を併用しているが、鳥類継続的調査は定点調査のみの結果である。）

なお、スズガモについては、正確な個体数を把握するため 1 1 月から 3 月までの間、三番瀬海域 3 地点（日の出、塩浜、ふなばし三番瀬海浜公園）において、同一日、同一時刻（原則的に 9 時 00 分に開始）に一斉カウントを行った。

現地調査では、出現鳥類の鳥種、確認位置、個体数などを記録した。調査には、倍率 8～10 倍の双眼鏡、倍率 20～30 倍の望遠鏡を使用し、個体数の計数にはカウンターを使用した。その際、可能な限り 1 羽ずつ数えたが、1000 羽を超す大きな群れや、激しく移動する群れの場合や、気象条件が悪い場合は概数で記録した。その際、複数回の概数をとったり、複数の調査員が相互に概数を確認するようにした。

ラインセンサス法と定点調査法を用い、調査地点毎の調査法を [表 1] に示す。

①ラインセンサス法

あらかじめ設定した調査ルートを、原則として時速 2 キロメートルほどのゆっくりした速度で歩き、ルートの上に出現した鳥類を記録した。その際、記録する範囲を、陸上では片側約 50 メートル、干潟と海上では片側約 1.5～2 キロメートルとした。ただし、カワウ、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類などの群れがいる場合は、立ち止まって全数をカウントした。

②定点調査法

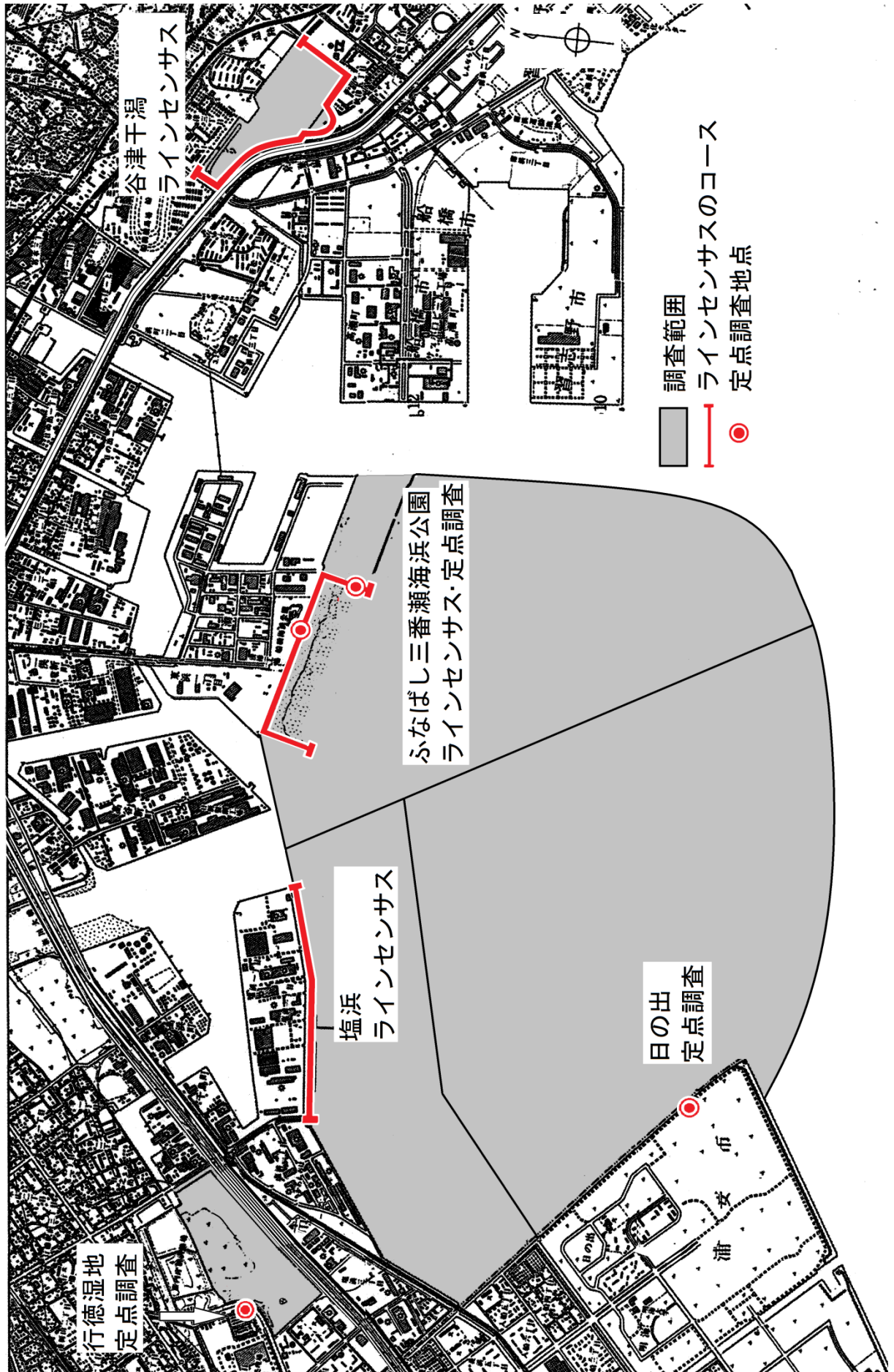
広い干潟や海域などで、一調査地点から調査範囲全体が把握できる場合、調査地点から可視範囲内に出現する全種を記録した。

[表 1] 各調査地点における調査方法

	ラインセンサス法	定点調査法
日の出		○
塩浜	○	
ふなばし三番瀬海浜公園※	○	○
行徳湿地		○
谷津干潟	○	

※ふなばし三番瀬海浜公園は鳥の種数・個体数とも多いためラインセンサス法と定点調査法を併用

調査地及び調査方法図



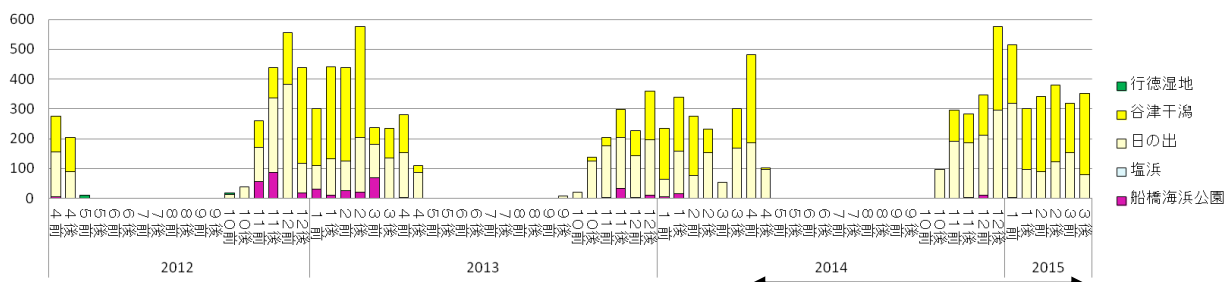
3. 調査結果

(1) 出現状況の概要

出現した水鳥のうち個体数の多かった15種について、3カ年の調査結果をグラフに表した。

ヒドリガモ 水面採餌性淡水ガモで、冬鳥として飛来する。短めの嘴で植物をむしり取るように採食する。陸上の草とともに、海岸のアオサを採食する。主に日の出と谷津干潟でまとまって記録されており、最大数は、1月前半、日の出の315羽であった。

ヒドリガモの出現状況(2012. 4月～2015. 3月)

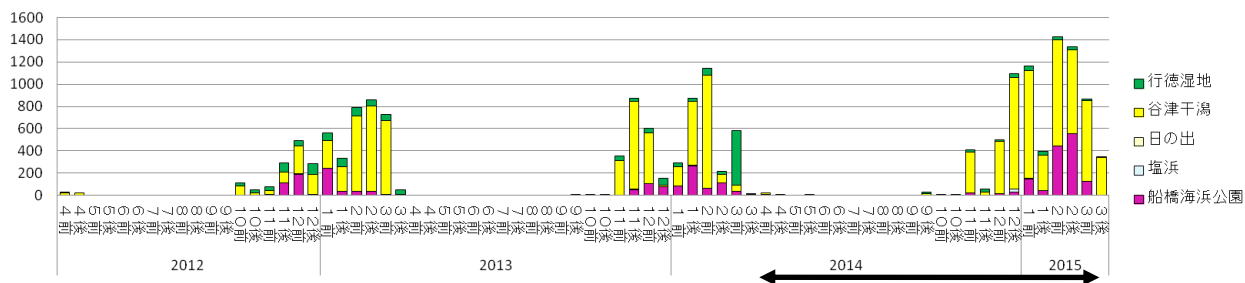


※グラフ上では「ふなばし三番瀬海浜公園」を「船橋海浜公園」と表記：以下同様

※ ←→ : 今期の調査部分：以下同様

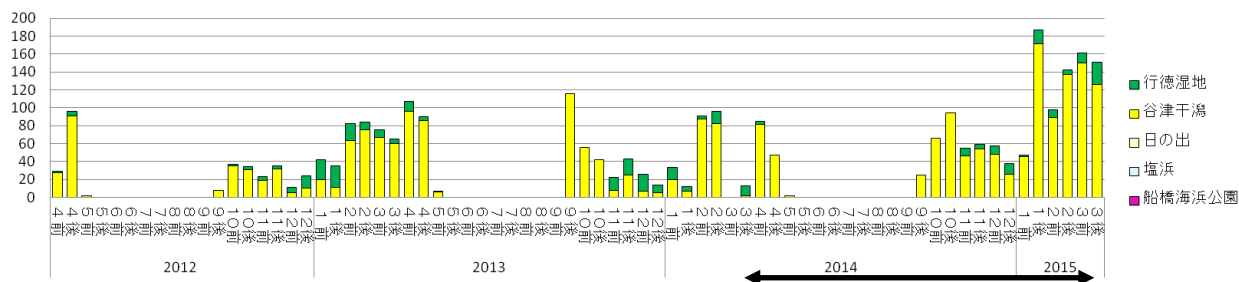
オナガガモ 水面採餌性淡水ガモで、冬鳥として飛来する。今期の調査で、400羽以上記録されたのはふなばし三番瀬海浜公園、谷津干潟であった。最大数は、12月後半、谷津干潟の1,000羽であった。

オナガガモの出現状況(2012. 4月～2015. 3月)



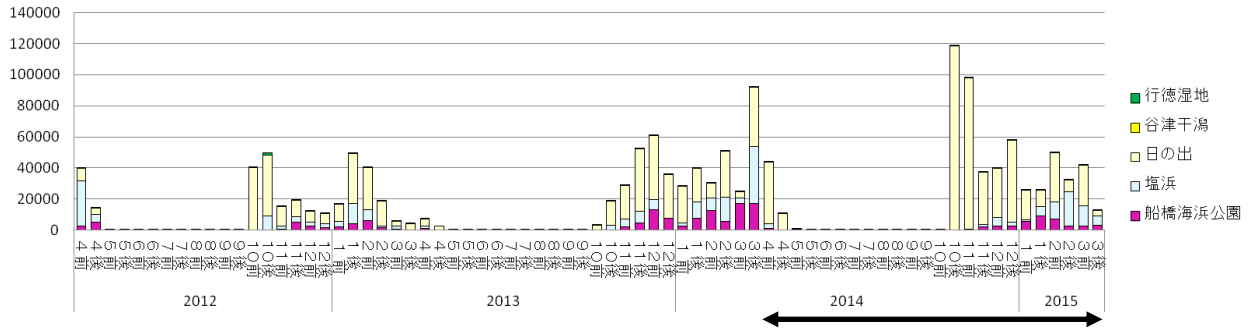
コガモ 水面採餌性淡水ガモで、冬鳥として飛来する。行徳湿地、谷津干潟で一定数が見られ、最大数は、1月後半、谷津干潟の171羽であった。

コガモの出現状況(2012. 4月～2015. 3月)



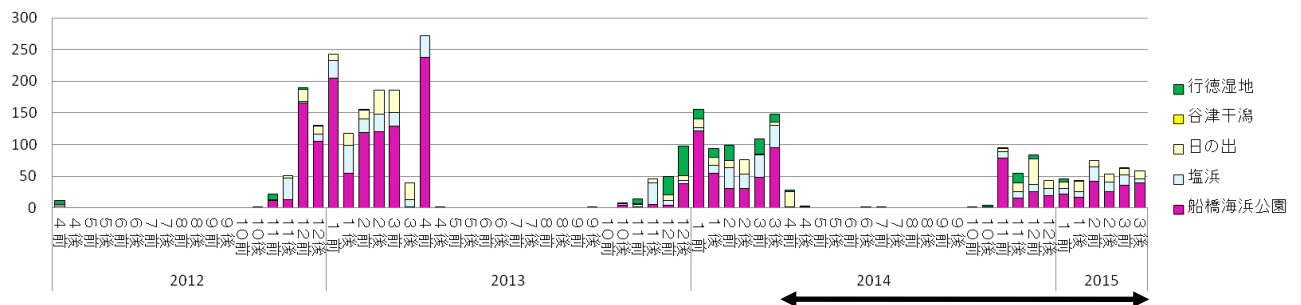
スズガモ 潜水採餌性ガモで、冬鳥として飛来する。海水域を好み、主として二枚貝を捕食するが、巻貝、甲殻類、魚類とその卵、植物類をも採食する（*Handbook of the Birds of Europe the Middle East and North Africa*）。今期の調査で10,000羽以上が確認されたのは日の出、塩浜で、最大数は、10月後半、日の出の118,500羽であった。

スズガモの出現状況(2012.4月～2015.3月)



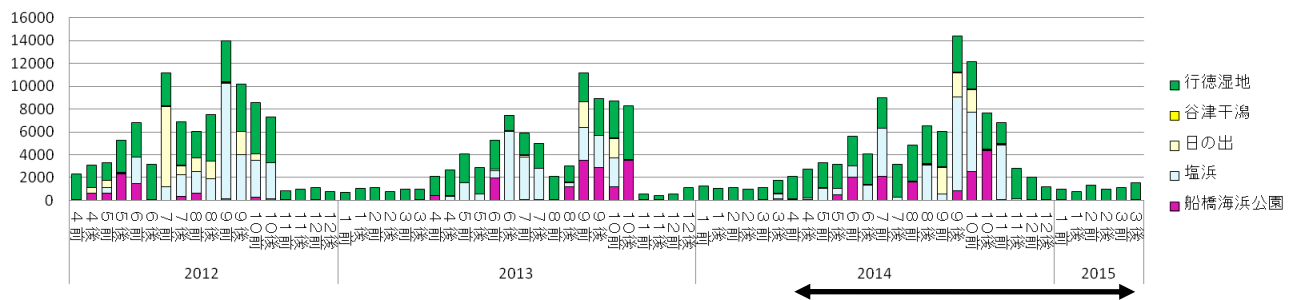
ハジロカイツブリ 主に海水域に生息し、日本には冬鳥として飛来する。今期の調査で50羽以上が観察されたのは、ふなばし三番瀬海浜公園のみで、最大数は11月前半、ふなばし三番瀬海浜公園の78羽であった。

ハジロカイツブリの出現状況(2012.4月～2015.3月)



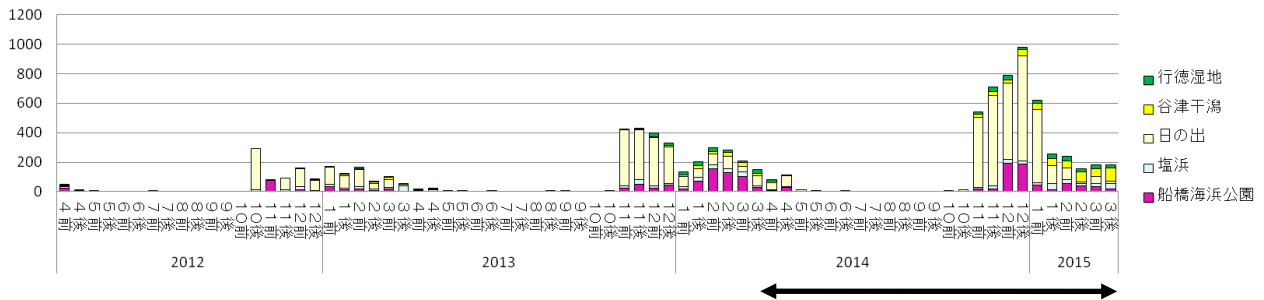
カワウ 行徳湿地で繁殖する。全調査地点で記録されている。今期の調査で2,000羽以上が記録された海域は、日の出、塩浜、行徳湿地、ふなばし三番瀬海浜公園で、最大数は9月後半の塩浜8,200羽であった。

カワウの出現状況(2012.4月～2015.3月)



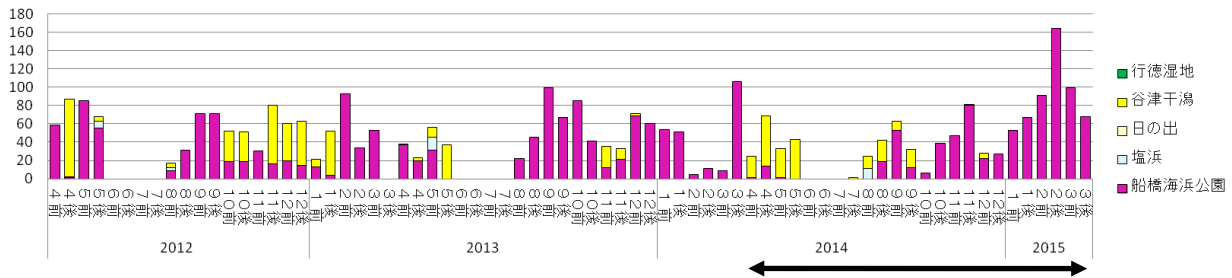
オオバン 留鳥として、淡水域に生息していたが、この15年ほど、生息域を海岸地帯に広げており、銚子港、九十九里浜の中小河川の河口部、東京湾奥部で観察される個体数が増加している。今期の調査では全調査地点で確認され、最大数は、11月前半、日の出の713羽であった。

オオバンの出現状況(2012.4月～2015.3月)



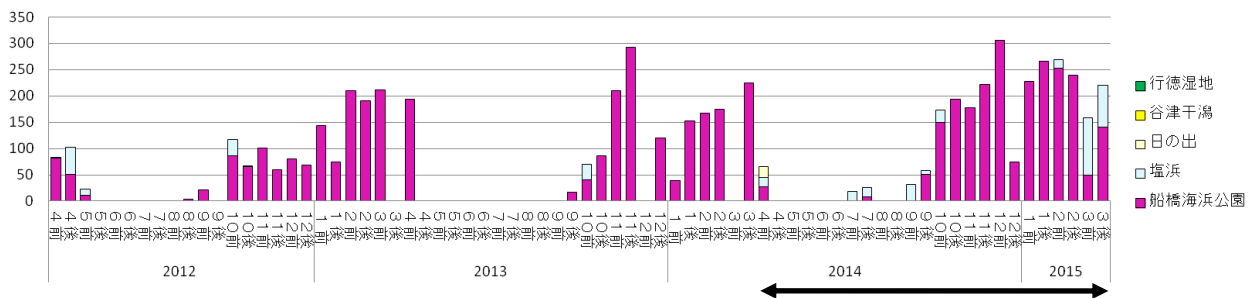
ダイゼン 大型のチドリで、冬鳥として飛来する。今期の調査では、50羽以上が確認されたのは、ふなばし三番瀬海浜公園と谷津干潟であり、最大数は、2月後半、ふなばし三番瀬海浜公園の164羽であった。

ダイゼンの出現状況(2012.4月～2015.3月)



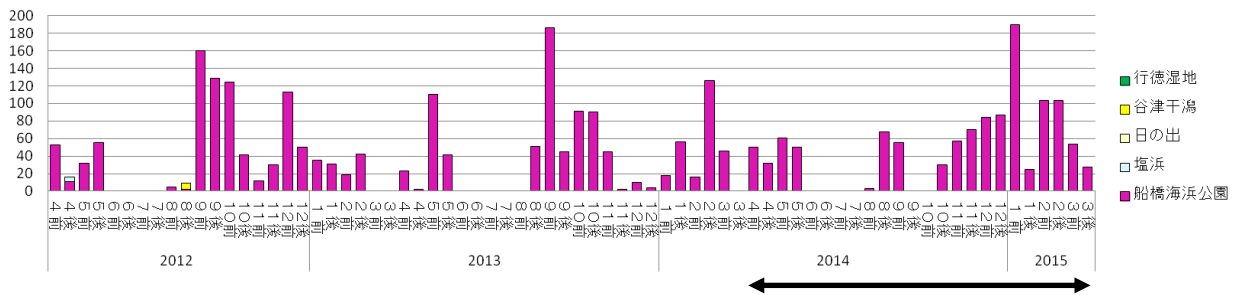
ミヤコドリ 1980年代までは、日本ではまれに飛来する鳥であったが、1980年代後半から、冬期に三番瀬海域に飛来するようになり、着実に個体数を増している。今期の調査では、日の出、塩浜、ふなばし三番瀬海浜公園で確認された。最大数は、11月後半、ふなばし三番瀬海浜公園の293羽であった。

ミヤコドリの出現状況(2012.4月～2015.3月)



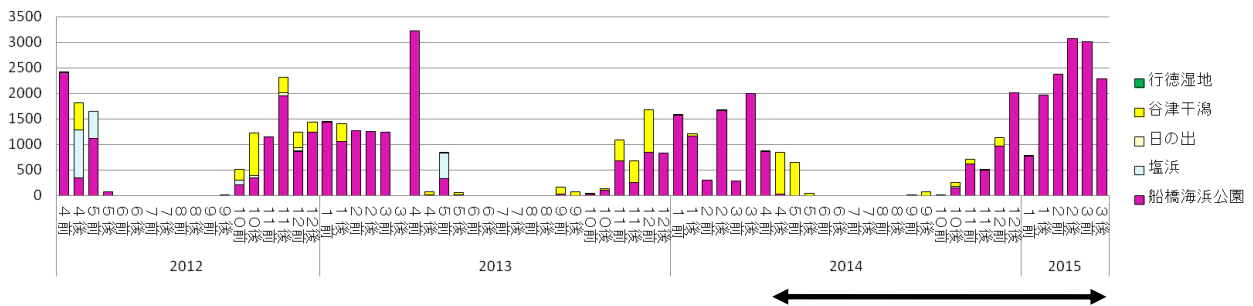
ミュビシギ 冬鳥として飛来し、九十九里浜や東京湾内の砂質の海岸の波打ち際で採餌する。昨年及び今期の調査で記録されたのは、ふなばし三番瀬海浜公園のみで、最大数は、1月後半の190羽である。

ミュビシギの出現状況(2012.4月～2015.3月)



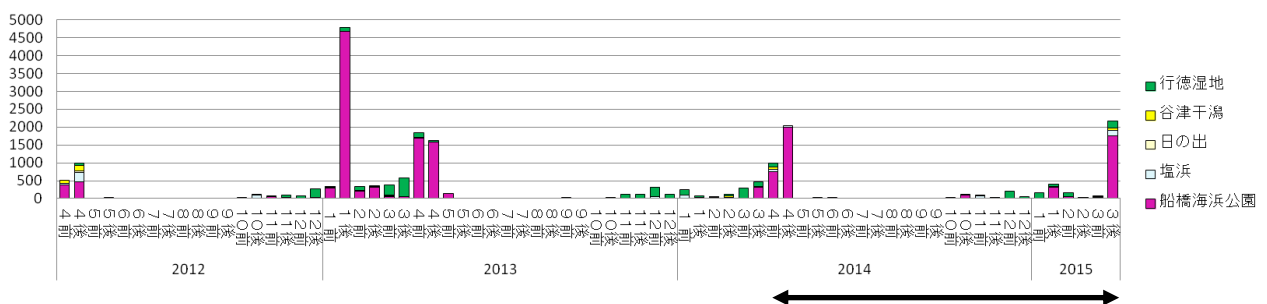
ハマシギ 冬鳥として飛来し、東京湾奥部、盤洲などで越冬する。主にふなばし三番瀬海浜公園と谷津干潟で確認され、最大数は、2月後半、ふなばし三番瀬海浜公園の3,073羽であった。

ハマシギの出現状況(2012.4月～2015.3月)



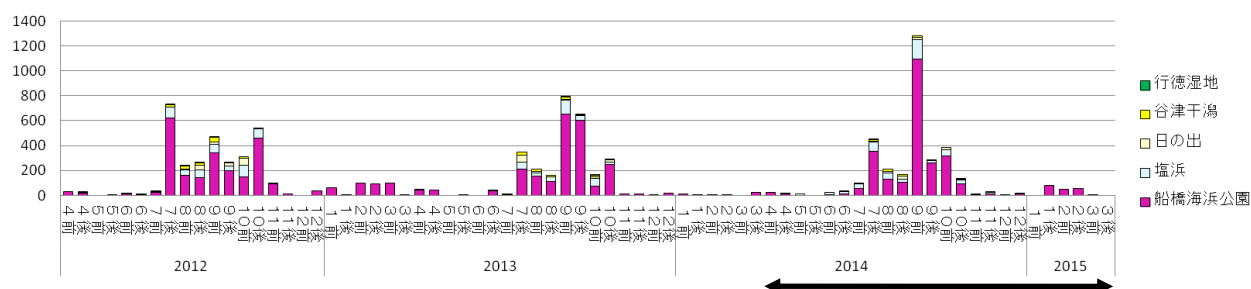
ユリカモメ 冬鳥として飛来する小型カモメで、全地点で観察された。今期の調査で、100羽以上が確認されたのは、ふなばし三番瀬海浜公園と行徳湿地で、最大数は4月前半のふなばし三番瀬海浜公園2,003羽であった。

ユリカモメの出現状況(2012.4月～2015.3月)



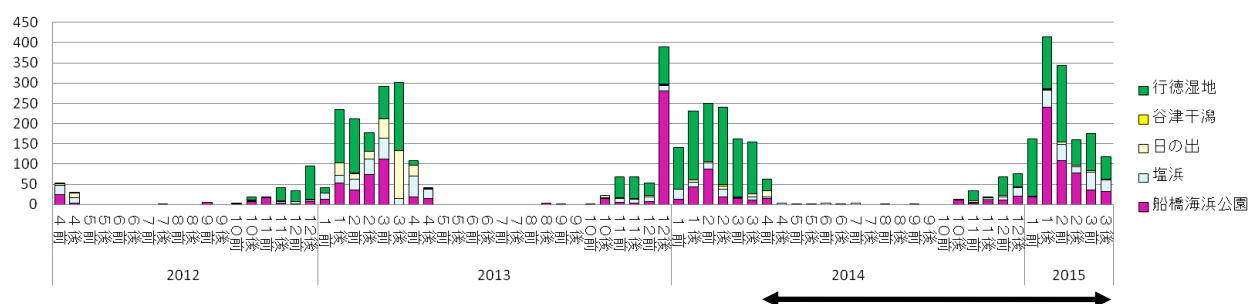
ウミネコ 中型カモメで、日本では留鳥として繁殖するが、千葉県では非繁殖期に飛来し、各地で見られる。今期の調査で100羽以上が確認されたのは、塩浜とふなばし三番瀬海浜公園で、最大数は、9月前半、ふなばし三番瀬海浜公園の1,096羽であった。

ウミネコの出現状況(2012.4月～2015.3月)



セグロカモメ 冬鳥として飛来する大型カモメで、全調査地点で確認されており、最大数は、1月後半、ふなばし三番瀬海浜公園の240羽であった。

セグロカモメの出現状況(2012.4月～2015.3月)



コアシサシ 夏鳥として飛来し、東京湾岸でも繁殖するが、埋立地での建設で裸地が減少した結果、繁殖個体数が減少している。主に三番瀬海域で確認されるが、今期の調査では、全調査地点で記録があった。最大数は、8月後半、ふなばし三番瀬海浜公園の2,350羽であった。

コアシサシの出現状況(2012.4月～2015.3月)

